

© WPI / DERWENT

TI - Vehicle seat-attached cup holder has cup holder fixed to cushion frame and is stored when folded

PR - JP19990218869 19990802

PN - JP2001039201 A 20010213 DW200125 B60N3/10 004pp

PA - (ALOC) ALOCA CO LTD

IC - B60N3/10

AB - JP2001039201 NOVELTY - A cup holder is attached in front surface of a seat cushion (10). A bracket (15) is fixed to a cushion frame (12). The cup holder is stored in the seat when folded.

- USE - For holding cup in seat side of motor vehicle.
- ADVANTAGE - Pad of seat cushion is set to regular thickness since cup holder is made foldable from cushion frame.
- DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the cross section of the cup holder attached to the seat cushion side.
- Seat cushion 10
- Cushion frame 12
- Bracket 15
- (Dwg.3/5)

OPD- 1999-08-02

AN - 2001-239536 [25]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-39201

(P2001-39201A)

(43) 公開日 平成13年2月13日 (2001.2.13)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 0 N 3/10

識別記号

F I

B 6 0 N 3/10

ターム(参考)

A 3 B 0 8 8

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-218869

(22) 出願日 平成11年8月2日 (1999.8.2)

(71) 出願人 000101639

アラコ株式会社

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地

(72) 発明者 吉田 明弘

愛知県豊田市吉原町上藤池25番地 アラコ株式会社内

(74) 代理人 100064344

弁理士 岡田 英彦 (外3名)

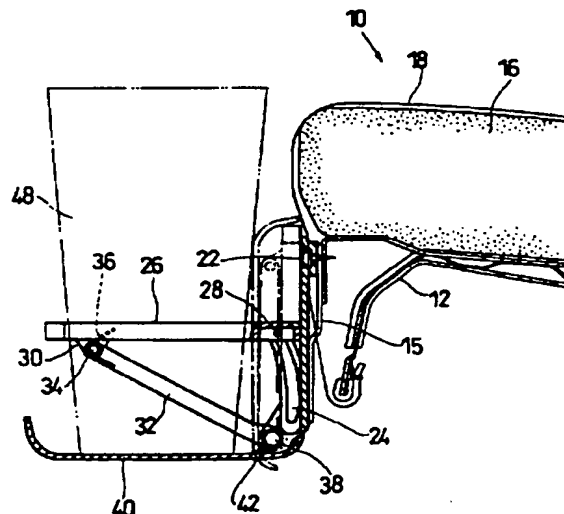
Fターム(参考) 3B088 LA01 LB07

(54) 【発明の名称】 自動車用シート付けカップホルダー

(57) 【要約】

【課題】 シート付けタイプのカップホルダーであっても、シートクッションのパッドの厚みを正規の寸法に確保して座り心地を良好に保つ。

【解決手段】 シートクッション10の側周部に対し、折りたたみによって収納できるタイプのカップホルダーが取り付けられている。これにより、シート付けカップホルダーの収納スペースを確保するためにシートクッション10のパッド16の厚みが犠牲になることが解消される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 シートクッションの側周部に対し、折りたたみによって収納できるタイプのカップホルダーが取り付けられている自動車用シート付けカップホルダー。

【請求項2】 請求項1記載の自動車用シート付けカップホルダーであって、カップホルダーがシートクッションの前面部に取り付けられている自動車用シート付けカップホルダー。

【請求項3】 請求項1記載の自動車用シート付けカップホルダーであって、カップホルダーの取付けブラケットがクッションフレームに固定されている自動車用シート付けカップホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動車のシート側に設けられるカップホルダーに関する。

【0002】

【従来の技術】図5は従来のシート付けカップホルダーの概要を表した断面図である。この図面で示すように従来のカップホルダー58は、シートクッション50の座面下に収納できる構造になっている。つまりパッド54の内部においてクッションフレーム52に固定されたホルダーケース56に対し、カップホルダー58がスライド可能に組み付けられている。したがってこのカップホルダー58は、ホルダーケース56内に収納された状態から図面で示すようにシートクッション50の前面に引き出して使用される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】図5で示されている従来の技術では、シートクッション50のパッド54内にカップホルダー58が収納されることから、前記ホルダーケース56が位置する部分でのパッド54の厚みを確保しにくい。とくにホルダーケース56の奥の上隅とパッド54の表面との間の寸法Sが小さく、クッションの保持が難しく、座り心地が損なわれてしまう。

【0004】本発明は前記課題を解決しようとするもので、その目的は、シート付けタイプのカップホルダーであっても、シートクッションのパッドの厚みを正規の寸法に確保して座り心地を良好に保つことである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は前記目的を達成するためのもので、請求項1記載の発明は、シートクッションの側周部に対し、折りたたみによって収納できるタイプのカップホルダーが取り付けられている。これにより、シート付けカップホルダーの収納スペースを確保するためにシートクッションのパッドの厚みが犠牲になることが解消され、このパッドの厚みが正規の寸法に確保される。

【0006】請求項2記載の発明は、請求項1記載の自動車用シート付けカップホルダーであって、カップホル

ダーがシートクッションの前面部に取り付けられている。このようにシートクッションの前面部を利用することにより、カップホルダーの取り付けスペースが容易に確保される。

【0007】請求項3記載の発明は、請求項1記載の自動車用シート付けカップホルダーであって、カップホルダーの取付けブラケットがクッションフレームに固定されている。前記カップホルダーはシートクッションに対していわゆる外付けされた構成であるが、クッションフレームに対する取付けブラケットの固定により、カップホルダーの取付け強度は充分保証される。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。図1は自動車用シートクッションの構造を表した分解斜視図、図2は図1の一部を拡大して表した斜視図である。これらの図面で示されているようにシートクッション10は、大別してクッションフレーム12、パッド16、カバー18により構成されている。クッションフレーム12はシートクッション10の骨格をなすもので、その上にパッド16が設けられ、これらを被うようにカバー18が被せられる。

【0009】前記クッションフレーム12の前面部14（前カマチ部）には、シート付けカップホルダー用の取付けブラケット15が固定されている。この取付けブラケット15の前面には、二個のビス孔15aと一個の位置決め孔15bとが設けられている。またパッド16の前面部には取付けブラケット15の前面と対応する箇所において切り欠き部16aが形成され、カバー18の前面部には取付けブラケット15のビス孔15a及び位置決め孔15bと対応する箇所に孔18aが設けられている（図1）。これによりシートクッション10の完成後に、取付けブラケット15に対してカップホルダーが後付けにより取り付けられる。

【0010】図3は取付けブラケット15に取り付けられたカップホルダーの断面図、図4は同じくカップホルダーの平面図である。これらの図面から明らかなように、カップホルダー本体20はその位置決め部分（図示外）を取付けブラケット15の位置決め孔15bに係合させ、かつビス孔15aにビス22を締め込むことによって取り付けられている。またカップホルダー本体20には、その両サイドにおいて上下方向へ円弧状に延びるガイド溝24が形成されている。

【0011】カップ48（図3）を倒れないように保持するためのカップホルダー部材26は、図4で示す平面形状をしているとともに、カップホルダー本体20とは別体に形成されている。このカップホルダー部材26の後端側には、その両サイドに貫通するガイド軸28が設けられ、このガイド軸28の両端部は前記ガイド溝24によって受けられている。このガイド軸28はガイド溝24の円弧形状に沿って移動可能であり、またこのガイ

ド軸28に対してカップホルド部材26は回転可能である。

【0012】カップホルド部材26の先端側の下面には、その両側において連結部30がそれぞれ一体に形成されており、これらには個々に支持バー32の一端部が軸34によって回転自在に連結されている。そして両支持バー32の他端部はカップホルダー本体20に対して軸38によりそれぞれ回転自在に連結されている。このようにカップホルド部材26は、ガイド軸28及び支持バー32により、図3の実線で示す使用位置と仮想線で示す収納位置との間を回転動作可能となっている。なお軸34には、カップホルド部材26と支持バー32との間で弾性力を発揮するトーションバネ36が設けられている。

【0013】一方、カップ48を載せるためのカップ受け部材40は、カップホルダー本体20とは別体でプレート状に形成され、その後端側が前記軸38によって回転可能に支持されている。このカップ受け部材40についても、図3の実線で示す使用位置と仮想線で示す収納位置との間を回転動作するようになっている。また軸38にはカップホルダー本体20とカップ受け部材40との間で弾性力を発揮するトーションバネ42が設けられている。

【0014】前記のように構成されたシート付け形式のカップホルダーにおいて、それを使用しないときは図3の仮想線で示すようにカップホルド部材26及びカップ受け部材40がカップホルダー本体20に添わせるように折りたたまれて収納されている。この収納状態においては、カップ受け部材40が他の構成部材を被う蓋の役割をしている。

【0015】さてカップホルダーを使用するにあたっては、カップホルド部材26及びカップ受け部材40をそれぞれ図3の実線で示す使用位置まで回転させる。このとき、カップホルド部材26はガイド軸28の軸線回りに回転し、かつこのガイド軸28はガイド溝24の内部を上に向かって移動し、溝の上縁によって位置規制される。このガイド軸28の位置規制と支持バー32と

により、カップホルド部材26は使用位置に保持される。

【0016】またカップ受け部材40は軸38の軸線回りに回転し、その後端部がカップホルダー本体20に当たることによって使用位置に保持される。これによってカップ48を図3で示すようにカップ受け部材40の上に置き、かつカップホルド部材26で倒れないように保持できる。なお使用状態でのカップホルド部材26及びカップ受け部材40は、振動などを受けても前記のトーションバネ36、42の弾性により、がたつかないようにになっている。

【0017】このように折りたたみ式のカップホルダーをシートクッション10に対して外付けすることにより、カップホルダーの収納スペースを確保するためにシートクッション10のパッド16の厚みを犠牲にすることがなく、またカップホルダー本体20はクッションフレーム12に固定された取付けブラケット15に直接取り付けられているので、シートクッション10に対するカップホルダーの取付け強度が確保される。

【図面の簡単な説明】

【図1】自動車用シートクッションの構造を表した分解斜視図。

【図2】図1の一部を拡大して表した斜視図。

【図3】シートクッション側に取り付けられたカップホルダーの断面図。

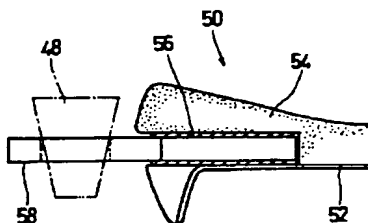
【図4】同じくカップホルダーの平面図。

【図5】従来のシート付けカップホルダーの概要を表した断面図。

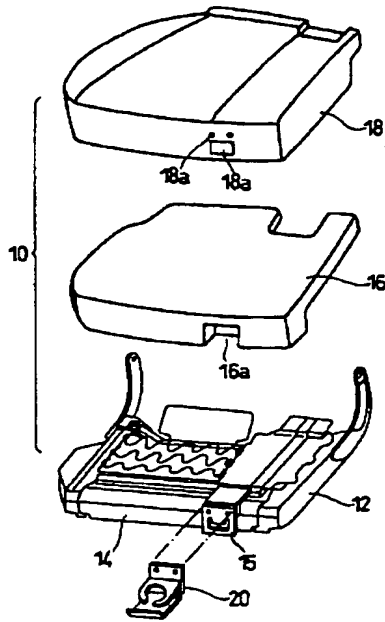
【符号の説明】

- 10 シートクッション
- 12 クッションフレーム
- 15 取付けブラケット
- 16 パッド
- 20 カップホルダー本体
- 26 カップホルド部材
- 40 カップ受け部材

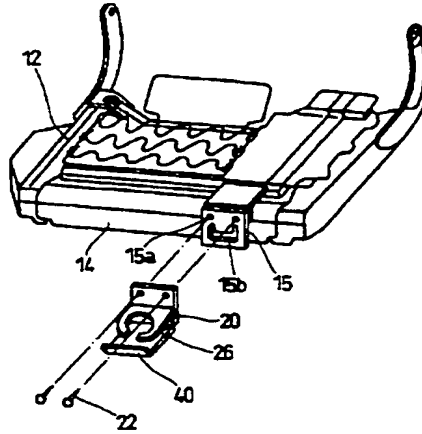
【図5】



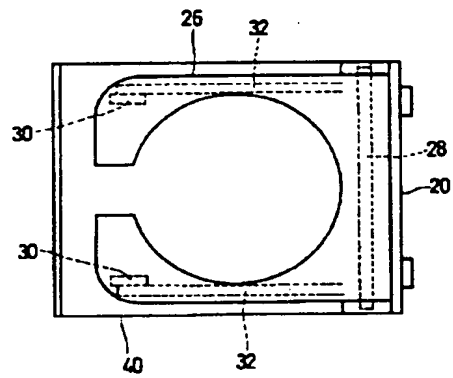
【図1】



【図2】



【図4】



【図3】

